

# 学外実習における言語表現教材の実践状況についての調査研究Ⅱ

—保育3実習の比較を中心に—

川 俣 沙 織      永 淵 美 香 子      櫻 井 裕 介

## Research on the Practical Situation of Language Expression Teaching Materials II

—Focusing on the Comparison of Two Practices at a Nursery School and a Child Welfare Facility

Saori Kawamata      Mikako Nagafuchi      Yusuke Sakurai

### 1. 調査の目的

厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」(平成27年3月31日一部改正)別紙2「保育実習実施基準」第2 履修の方法 に示されているように、保育士資格の取得のためには児童福祉施設における3回の単位実習が必須である。

本学幼児保育学科ではこれに準拠し、保育士資格取得にかかる単位実習として保育所実習A(保育実習Ⅰに相当)・保育所実習B(保育実習Ⅱに相当)・施設実習(保育実習Ⅲに相当)の3実習を実施しているが、これら3実習の内容には見学・観察・参加はもちろんのこと、部分保育をはじめとする指導も含まれており、その際には絵本や紙芝居といった言語表現教材がひろく活用されている。

平成25年度保育士養成協議会専門委員会課題研究「保育者の専門性についての調査」において、保育者の専門性としての「身体、音楽、造形、言語等の表現活動に関する技術」はどの段階までに獲得されるべきと考えるか、との問いに対し、保育所保育士・施設保育士ともに「実習を経て卒業までに」獲得すべき、との回答が最多<sup>2</sup>であったことが報告されているが、本研究では、保育3実習における言語表現教材の実践状況を軸に、現在の本学の実習指導体制の教育効果を検証するとともに、今後の指導上の課題を探るべく、実習先の種別によって、あるいは何回目の実習であるかによって差異が生じるかを見ることとする。別稿「学外実習における言語表現教材の実践状況についての調査研究Ⅰ—初回保育所実習と初回幼稚園教育実習の比較を中心に—」にて初回保育実習と初回幼稚園教育実習における言語表現教材の実践状況について調査し、両者を比較したが、本稿はこれに続き、保育士資格取得に必要な保育3実習における言語表現教材の実践状況について同様の調査を行い、その結果

資料1 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」(平成27年3月31日一部改正)

別紙2 「保育実習実施基準」第2 履修の方法

#### 第2 履修の方法

1 保育実習は、次表の第3欄に掲げる施設につき、同表第2欄に掲げる履修方法により行うものとする。

実習種別 (第1欄)	履修方法(第2欄)		実習施設 (第3欄)
	単位数	施設におけるおおむねの実習日数	
保育実習Ⅰ (必修科目)	4単位	20日	(A)
保育実習Ⅱ (選択必修科目)	2	10日	(B)
保育実習Ⅲ (選択必修科目)	2	10日	(C)

備考1 第3欄に掲げる実習施設の種別は、次によるものであること。

- (A) …保育所、幼保連携型認定こども園又は児童福祉法第6条の3第10項の小規模保育事業(ただし、「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準」(平成26年厚生労働省令第61号)第3章第2節に規定する小規模保育事業A型及び同基準同章第3節に規定する小規模保育B型に限る)若しくは同条第12項の事業所内保育事業であって同法第34条の15第1項の事業及び同法同条第2項の認可を受けたもの(以下「小規模保育A・B型及び事業所内保育事業」という。)及び乳児院、母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター(児童発達支援及び医療型児童発達支援を行うものに限る)、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所(生活介護、自立訓練、就労移行支援又は就労継続支援を行うものに限る)、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、児童相談所一時保護施設又は独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
- (B) …保育所又は幼保連携型認定こども園或いは小規模保育A・B型及び事業所内保育事業
- (C) …児童厚生施設又は児童発達支援センターその他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設であって保育実習を行う施設として適当と認められるもの(保育所及び幼保連携型認定こども園並びに小規模保育A・B型及び事業所内保育事業は除く。)

#### 備考2

保育実習(必修科目)4単位の履修方法は、保育所又は幼保連携型認定こども園或いは小規模保育A・B型及び事業所内保育事業における実習2単位及び(A)に掲げる保育所又は幼保連携型認定こども園或いは小規模保育A・B型及び事業所内保育事業以外の施設における実習2単位とする。

を報告するものである。

## 2. 調査の概要

本学幼児保育学科平成28年度入学生200余名に対し、保育所実習Aの直後である2年次4月および保育所実習B・施設実習の直後である2年次10月にアンケート調査<sup>3</sup>を行った。対象者の内訳を以下に地域別に記す。

表1 調査対象者内訳

	福岡市内	福岡県内	福岡県外	記載なし	計
保育所実習A	69	68	71	0	208
保育所実習B	83	66	48	0	197
施設実習	72	62	61	2	197

保育所実習Aは保育3実習のうち初めての实習ということから、原則として下宿先からの通勤ではなく、保護者による生活面での支援を得ることが期待できる実家からの通勤が可能な園での実習を実施するよう指導している。一方、保育所実習Bと施設実習の実習先については必ずしも地元に限定してはいることから、卒業後の就職を見据え、福岡市内で実習を行う県外生も少なくない。例年、本学幼児保育学科入学生における県外生の割合は3割強に達するが、本調査では実習を実施した地域によって差異が生じるか否かも見る。

なお、以下の4点の観点に基づき調査用紙を作成した(アンケート調査用紙は末尾の資料2を参照のこと)。

- ① 実践した言語表現教材の種類
- ② 実践を自主的に行ったか、実習先の指導担当者から

の指示で行ったか

- ③ 実践の事前あるいは事後に実習先の指導担当者からの指導を受けたか
- ④ 教材を持参したか、実習先の備品を借用したか

本学幼児保育学科における実習指導では、どの実習においても積極的に実践を行うよう指導しているが、具体的に何の教材を選択するかは学生の判断に任せている。①の設問において具体的な教材の種類を、②の設問において、実践が実習先の指導担当者に自ら申し出て行われたのか、あるいは指導担当者から課せられたかについて確認する。③の設問では、省察・改善を行うに必要な指導担当者からの指導を受けたか否かを、④の設問では、実習における言語表現教材の実践に際し、どの程度持参すべきかを見る。

## 3. 調査の結果

以下に観点ごとの結果を記す。

### <観点① 実践した言語表現教材の種類>

まず、どんな言語表現教材を実践したか、何種類の言語表現教材を実践したかについて、結果を報告する。保育所実習Aにおける状況は以下の通り。

実践した教材数は1種類が92名(福岡市内31名、福岡県内34名、福岡県外27名)、2種類が83名(福岡市内28名、福岡県内25名、福岡県外30名)、3種類が24名(福岡市内6名、福岡県内7名、福岡県外11名)、4種類が

表2 保育所実習A 実践教材(種類別)

	すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	県外	
1種	絵本	85	27	33	9	1	3	5	4	3	25
	紙芝居	3	1	1	0	0	0	0	1	0	1
	ペープサート	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	エプロンシアター	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	その他	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
2種	絵本・紙芝居	47	14	17	5	2	0	5	2	2	16
	絵本・素話	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・パネルシアター	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・ペープサート	14	8	3	0	0	1	2	0	0	3
	絵本・エプロンシアター	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・その他	21	6	4	3	0	0	6	2	0	11
3種	絵本・紙芝居・パネルシアター	3	0	2	0	0	0	0	1	0	1
	絵本・紙芝居・ペープサート	7	2	3	1	0	0	0	1	0	2
	絵本・紙芝居・エプロンシアター	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	絵本・紙芝居・その他	11	2	2	1	1	3	1	1	0	7
	絵本・ペープサート・その他	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
4種	絵本・紙芝居・ペープサート・その他	2	1	0	0	0	0	0	1	0	1
5種	絵本・紙芝居・素話・ペープサート・人形劇	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1
なし	実践なし	5	2	2	1	0	0	0	0	0	1
	計	208	69	68	21	4	8	19	13	6	71

2名（福岡市内1名，福岡県内0名，福岡県外1名），5種類が2名（福岡市内0名，福岡県内0名，福岡県外2名），実践実績なしが5名（福岡市内2名，福岡県内2名，福岡県外1名）であった。

なお、「その他」として，具体的には手袋シアター（23件），言葉遊び（1件），手遊び（6件），指人形（1件），紙皿シアター（3件），わらべうた（1件），新聞紙シアター（1件），ダンス（1件），ピアノ（1件），折り紙指導（1件）が挙げられた。なお，ダンスとピアノ，折り紙指導については言語表現教材と見なしがたいため，除外することとした。

保育所実習Bにおける状況は以下の通り。

実践した教材数は1種類が92名（福岡市内43名，福岡県内3名，福岡県外18名），2種類が76名（福岡市内26名，福岡県内24名，福岡県外26名），3種類が18名（福岡市内10名，福岡県内6名，福岡県外2名），4種類が2名（福岡市内0名，福岡県内1名，福岡県外1名），5種類が1名（福岡市内0名，福岡県内0名，福岡県外1名），実践実績なしが8名（福岡市内4名，福岡県内4名，福岡県外0名）であった。

なお、「その他」として，具体的には手袋シアター（17件），新聞紙シアター（2件），紙皿シアター（3件），

表3 保育所実習B 実践教材（種類別）

		すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	県外・記載なし	県外
1種	絵本	86	41	29	6	2	1	4	1	1	1	16
	紙芝居	5	2	1	0	0	0	0	1	1	0	2
	ペープサート	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
2種	絵本・紙芝居	45	15	16	4	1	2	4	0	3	0	14
	絵本・パネルシアター	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・ペープサート	15	6	3	1	0	3	2	0	0	0	6
	絵本・エプロンシアター	6	0	0	1	0	1	3	1	0	0	6
3種	絵本・その他	6	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・紙芝居・パネルシアター	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・紙芝居・ペープサート	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	絵本・紙芝居・エプロンシアター	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・紙芝居・その他	7	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・パネルシアター・ペープサート	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・ペープサート・その他	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4種	絵本・エプロンシアター・その他	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	絵本・紙芝居・パネルシアター・その他	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
5種	絵本・紙芝居・ペープサート・その他	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサート・その他	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	実践なし	8	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	197	83	66	13	3	8	13	5	5	1	48

表4 施設実習 実践教材（種類別）

		すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	山口	広島	県外	記載なし
1種	絵本	55	20	17	7	2	0	6	2	1	0	0	18	0
	紙芝居	6	0	3	1	0	1	1	0	0	0	0	3	0
	素話	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	パネルシアター	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペープサート	4	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3	0
2種	絵本・紙芝居	11	5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・素話	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
	絵本・パネルシアター	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	絵本・ペープサート	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・その他	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0
	紙芝居・ペープサート	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペープサート・その他	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3種	絵本・紙芝居・パネルシアター	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵本・紙芝居・ペープサート	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
4種	絵本・紙芝居・パネルシアター・その他	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なし	実践なし	102	40	29	8	2	4	8	6	5	0	0	33	0
	計	197	72	62	17	4	6	15	8	7	3	1	61	2

はちまきシアター（1件）、歌（1件）が挙げられた。なお、歌については言語表現教材と見なしがたいため、除外することとした。

施設実習における状況は以下の通り。

実践した教材数は1種類が70名（福岡市内21名，福岡県内24名，福岡県外25名，記載なし0名），2種類が20名（福岡市内8名，福岡県内8名，福岡県外3名，記載なし1名），3種類が3名（福岡市内2名，福岡県内0名，福岡県外0名，記載なし1名），4種類が2名（福岡市内1名，福岡県内1名，福岡県外0名，記載なし0名），実践実績なしが102名（福岡市内40名，福岡県内29名，福岡県外33名，記載なし0名）であった。

なお、「その他」として、具体的には手袋シアター（3件）、大型絵本（1件）、ハンドベル（2件）歌（2件）が挙げられた。なお、ハンドベル、歌については言語表現教材と見なしがたいため、除外することとした。

実践した種類数ごとの全体に対する割合において三者を比較すると以下の通りとなる。

保育所実習A・保育所実習Bともに1種類の実践が最も多かったが、2種類・3種類の実践においては保育所実習Bよりも保育所実習Aの方が多く、施設実習においては実践なしが最多となった。また、最も多く実践された言語表現教材は保育所実習Aおよび保育所実習Bにおいては絵本であり、次に紙芝居、その次に絵本・その他

であった。施設実習においても最も多く実践された言語表現教材は絵本であったが、実践なしが最多であった。

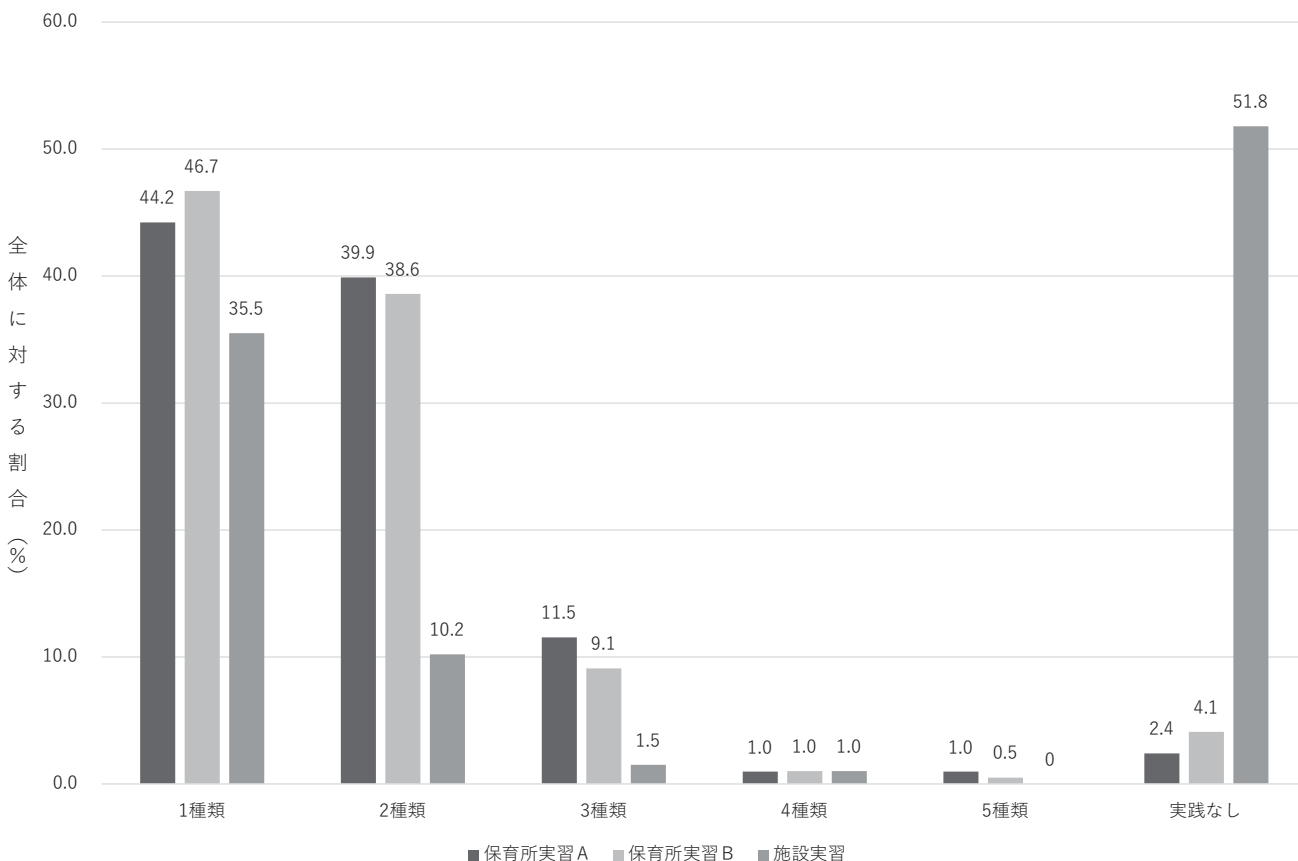
<観点② 実践を自主的に行ったか、実習先の指導担当者からの指示で行ったか>

次に、実践を自ら申し出て自主的に行ったのか、実習先の指導担当者からの指示で行ったのかについて、結果を報告する。保育所実習Aにおける状況は以下の通り。

表5 保育所実習A 自主的か否か

	すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	県外
自主的	48	20	15	6	0	0	3	3	1	13
一部自主的	75	23	25	5	3	4	8	6	1	27
指示され	77	24	25	7	1	4	8	4	4	28
実践なし	6	2	2	2	0	0	0	0	0	2
記載なし	2	0	1	1	0	0	0	0	0	1
計	208	69	68	21	4	8	19	13	6	71

自主的に実践を行った者が48名（福岡市内20名，福岡県内15名，福岡県外13名），一部の実践を自主的に，一部の実践を実習先の指導担当者から指示されて行った者が75名（福岡市内23名，福岡県内25名，福岡県外27名），すべての実践を実習先の指導担当者から指示されて行った者が77名（福岡市内24名，福岡県内25名，福岡県外28名），実践を行う機会がなかった者が6名（福岡市内2名，福岡県内2名，福岡県外2名），記載のなかった者



グラフ1 言語表現教材 種類数ごとの実践状況

が2名(福岡市内0名, 福岡県内1名, 福岡県外1名)であった。

保育所実習Bにおける状況は以下の通り。

表6 保育所実習B 自主的か否か

	すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	記載なし	県外	県外
自主的	35	14	13	2	1	1	3	1	0	0	0	8
一部自主的	80	29	24	5	0	6	9	2	4	1	1	27
指示され	74	36	25	6	2	1	1	2	1	0	0	13
実践なし	8	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	197	83	66	13	3	8	13	5	5	1	1	48

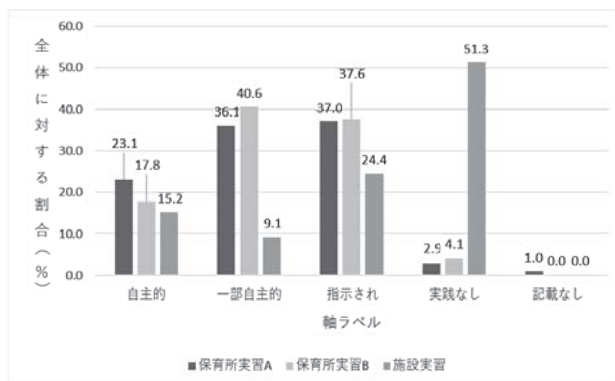
自主的に実践を行った者が35名(福岡市内14名, 福岡県内13名, 福岡県外8名), 一部の実践を自主的に, 一部の実践を実習先の指導担当者から指示されて行った者が80名(福岡市内29名, 福岡県内24名, 福岡県外27名), すべての実践を実習先の指導担当者から指示されて行った者が74名(福岡市内36名, 福岡県内25名, 福岡県外13名), 実践を行う機会がなかった者が8名(福岡市内4名, 福岡県内4名, 福岡県外0名)であった。

施設実習における状況は以下の通り。

表7 施設実習 自主的か否か

	すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	山口	広島	県外	記載なし
自主的	30	9	11	3	1	0	4	0	1	1	0	10	0
一部自主的	18	9	5	2	0	1	0	1	0	0	0	4	0
指示され	48	14	19	4	1	1	3	1	1	2	0	13	2
実践なし	101	40	27	8	2	4	8	6	5	0	1	34	0
計	197	72	62	17	4	6	15	8	7	3	1	61	2

自主的に実践を行った者が30名(福岡市内9名, 福岡県内11名, 福岡県外10名, 記載なし0名), 一部の実践を自主的に, 一部の実践を実習先の指導担当者から指示されて行った者が18名(福岡市内9名, 福岡県内5名, 福岡県外4名, 記載なし0名), すべての実践を実習先の指導担当者から指示されて行った者が48名(福岡市内14名, 福岡県内19名, 福岡県外13名, 記載なし2名), 実践を行う機会がなかった者が101名(福岡市内40名,



グラフ2 実践 自主的か否か

福岡県内27名, 福岡県外34名, 記載なし0名)であった。

自主的な実践か否かについて, 全体に対する割合を三者で比較すると以下の通りとなる。

すべての実践を自主的に申し出て行った割合は保育所実習Aが最も高く, 実践の一部を自主的に, 一部を指示されて行った割合は保育所実習Bが最も高かった。施設実習においては実践を行う機会がなかった者の割合が突出して多く, 5割に達している。

<観点③ 実践の事前あるいは事後に実習先の指導担当者からの指導を受けたか>

次に, 実践を行うにあたり, 事前・あるいは事後に指導を受けたか否かについて, 結果を報告する。保育所実習Aにおける状況は以下の通り。

表8 保育所実習A 事前指導・事後指導の有無

		すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	県外	県外
事前指導	あり	101	32	30	13	2	3	11	7	3	3	39
	なし	102	35	36	7	2	5	8	6	3	3	31
事後指導	あり	176	60	54	17	4	6	17	13	5	6	62
	なし	27	7	12	3	0	2	2	0	1	1	8

事前指導があった者が101名(福岡市内32名, 福岡県内30名, 福岡県外39名), 事前指導のなかった者が102名(福岡市内35名, 福岡県内36名, 福岡県外31名), 事後指導のあった者が176名(福岡市内60名, 福岡県内54名, 福岡県外62名), 事後指導のなかった者が27名(福岡市内7名, 福岡県内12名, 福岡県外8名)であった。

保育所実習Bにおける状況は以下の通り。

表9 保育所実習B 事前指導・事後指導の有無

		すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	記載なし	県外	県外
事前指導	あり	43	16	13	3	0	4	5	1	0	1	1	14
	なし	147	64	49	10	3	4	8	4	5	0	0	34
事後指導	あり	119	51	40	7	1	4	9	4	2	1	1	28
	なし	71	29	22	6	2	4	4	1	3	0	0	20

事前指導があった者が43名(福岡市内16名, 福岡県内13名, 福岡県外14名), 事前指導のなかった者が147名(福岡市内64名, 福岡県内49名, 福岡県外34名), 事後指導のあった者が119名(福岡市内51名, 福岡県内40名, 福岡県外28名), 事後指導のなかった者が71名(福岡市内29名, 福岡県内22名, 福岡県外20名)であった。

施設実習における状況は以下の通り。

事前指導があった者が16名(福岡市内7名, 福岡県内8名, 福岡県外1名, 記載なし0名), 事前指導のなかった者が80名(福岡市内25名, 福岡県内27名, 福岡県外26名, 記載なし2名), 事後指導のあった者が29名(福岡



6名、福岡県内6名、福岡県外1名、記載なし0名)、一部を持参し、一部を園から借用した者が3名(福岡市内1名、福岡県内2名、福岡県外0名、記載なし0名)、すべて園から借用した者が58名(福岡市内24名、福岡県内12名、福岡県外20名、記載なし2名)、記載のなかった者が4名(福岡市内0名、福岡県内4名、福岡県外0名、記載なし0名)であった。

紙芝居については、すべて持参した者が0名、一部を持参し、一部を園から借用した者が3名(福岡市内1名、福岡県内2名、福岡県外0名、記載なし0名)、すべて園から借用した者が14名(福岡市内6名、福岡県内4名、福岡県外3名、記載なし1名)記載のなかった者が3名(福岡市内0名、福岡県内3名、福岡県外0名、記載なし0名)であった。

さらに関連し、紙芝居の舞台とパネルシアターのボード<sup>5)</sup>についても同様の調査を行った。保育所実習Aにおける状況は以下の通り。

表14 保育所実習A 紙芝居舞台・パネルシアターボード 持参か借用か

		すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	県外
紙芝居舞台	手持ち	71	17	25	7	3	4	6	6	3	29
	舞台借用	2	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	記載なし	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
パネルシアターボード	持参	4	1	2	0	0	0	0	1	0	1
	園から借用	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0

紙芝居の舞台については、持参せず手で持って実演した者が71名(福岡市内17名、福岡県内25名、福岡県外29名)、持参せず園から舞台を借用し実演した者が2名(福岡市内1名、福岡県内0名、福岡県外1名)、記載のなかった者が2名(福岡市内2名、福岡県内0名、福岡県外0名)であった。

パネルシアターのボードについては、持参した者が4名(福岡市内1名、福岡県内2名、福岡県外1名)、園から借用した者が1名(福岡市内1名、福岡県内0名、福岡県外0名)であった。

保育所実習Bにおける状況は以下の通り。

紙芝居の舞台については、持参せず手で持って実演した者が68名(福岡市内25名、福岡県内24名、福岡県外19

表15 保育所実習B 紙芝居舞台・パネルシアターボード 持参か借用か

		すべて	市内	県内	大分	鹿児島	熊本	佐賀	長崎	宮崎	県外
紙芝居舞台	手持ち	68	25	24	5	1	3	4	2	4	19
	舞台持参	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	舞台借用	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
パネルシアターボード	持参	2	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	園から借用	3	2	0	0	0	1	0	0	0	1
	手作りボード持参	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0

名)、持参せず園から舞台を借用し実演した者が1名(福岡市内1名、福岡県内0名、福岡県外0名)、舞台を持参し使用した者が1名(福岡市内1名、福岡県内0名、福岡県外0名)であった。

パネルシアターのボードについては、持参した者が2名(福岡市内1名、福岡県内0名、福岡県外1名)、園から借用した者が3名(福岡市内2名、福岡県内0名、福岡県外1名)、手作りのボードを持参し使用した者が2名(福岡市内1名、福岡県内1名、福岡県外0名)であった。

施設実習における状況は以下の通り。

表16 施設実習 紙芝居舞台・パネルシアターボード 持参か借用か

		すべて	市内	県内	大分	熊本	佐賀	県外	記載なし
紙芝居舞台	手持ち	24	8	12	1	1	1	3	1
	舞台借用	0	0	0	0	0	0	0	0
パネルシアターボード	持参	0	0	0	0	0	0	0	0
	園から借用	10	4	4	1	0	0	1	1

紙芝居の舞台については、持参せず手で持って実演した者が24名(福岡市内8名、福岡県内12名、福岡県外3名、記載なし1名)、持参せず園から舞台を借用し実演した者が0名、一部は手持ちで、一部は舞台を借用した者が0名であった。

パネルシアターのボードについては、持参した者が0名、園から借用した者が10名(福岡市内4名、福岡県内4名、福岡県外1名、記載なし1名)であった。

#### 4. まとめと今後の課題

調査の結果を観点別に改めて整理する。

##### ①実践した言語表現教材の種類

今回の調査では、1種類の教材を実践した者の割合が最も高かったのは2回目の保育所実習である保育所実習B(46.7%)であったが、保育所実習A(44.2%)との差は数%に留まっていた。

一方、2種類・3種類の実践においては保育所実習B(2種類:38.6%, 3種類9.1%)よりも初回の保育所実習である保育所実習A(2種類:39.9%, 3種類11.5%)の方が数%上回り、4種類の実践は両者同率、5種類の実践は0.5%の差でやはり保育所実習Aが上回り、実践を行う機会のなかった者は保育所実習Aが2.4%だったのに対し保育所実習Bは4.1%と微増している。いずれも僅かな差ではあるが、保育士の専門性の向上のためには実習回数を重ねるごとにより多くの実践経験を積み、評価・改善を踏まえた次の実践への接続を反復す

ることが重要であることを鑑みれば、望ましい状況であるとは言い難い。以降の実習の事前・事後指導においては、言語表現教材に限らず、多様な実践経験を積むために実習先に自ら申し出るよう、継続して指導を行いたい。

また、実践を行う機会のなかった者が施設実習で5割を越え、他の2実習と大きな差異が生じているが、これは実習先となる児童福祉施設の種別によっては言語表現教材の活用機会が得難い<sup>6</sup>ことが要因として考えられる。これは施設実習に限らず、保育所実習においても言えることで、実習先の園の保育方針や保育内容、配属クラスの年齢などによっては言語表現教材の活用機会が得難いこともあるだろう。こういった実習先の特性を踏まえつつ、実践の機会が得られる状況においてはどの実習においても可能な限り実践を行うよう、今後の学内指導において徹底したい。

### ②実践を自主的に行ったか、実習先の指導担当者からの指示で行ったか

すべての実践を自主的に行った割合が、保育所実習Aでは23.1%、保育所実習Bでは17.8%、施設実習で15.2%と際立って大きな差異は認められなかった。実践の一部を自主的に、一部を指示され行った者の割合（保育所実習A：36.1%、保育所実習B：40.6%、施設実習：9.1%）とすべての実践を実習先の指導担当者から指示されて行った者の割合（保育所実習A：37.0%、保育所実習B：37.6%、施設実習：24.4%）においては、保育所実習Aと保育所実習Bの差異はごくわずかに留まり、両者と施設実習との差異が大きく表れていた。これは上に記したように、実習先の特性によるものと推察される。実習では指示されずとも積極的に自ら実践を申し出るよう、これ以降も継続して指導していきたい。

### ③実践の事前あるいは事後に実習先の指導担当者からの指導を受けたか

事前か事後かにかかわらず、指導のあった者の割合は保育所実習Aにおいては88.2%と9割弱に達した一方、保育所実習Bにおいては63.8%、施設実習においては33.6%に留まった。また、事前指導・事後指導ともになかった者が保育所実習Aにおいて11.3%、保育所実習Bにおいて36.3%、施設実習において66.3%と、少なくない割合を示したことは看過しがたい。表現技術の向上のためには、実践の事前・事後に指導担当保育士から指導・助言を得ることは本来欠かすことはできないものである。指導担当保育士からの働きかけを待つのではなく、実習生自らが指導担当者へ指導を仰ぐよう、これまで以上に学内指導において学生へ伝えていく必要がある

だろう。

### ④教材を持参したか、実習先の備品を借用したか

学内指導において、教材は可能な限り持参するよう伝えているが、一部借用も含めれば、保育所実習Aで絵本が71.8%、紙芝居が87.8%、保育所実習Bで絵本が63.4%、紙芝居が90.8%、施設実習で絵本が82.4%、紙芝居が100%もの割合で園から借用している実態が明らかとなった。

絵本や紙芝居は自由遊び中に子供が持ってきたものを読んでほしいと求められ、実演することも多いため、今回のこの結果を以って実習の事前準備が徹底されていなかったと見るのは正しくないだろう。しかし、初回の実習である保育所実習Aでの経験を踏まえてか、保育所実習Bでの借用の割合は減少している一方、施設実習における借用の割合は増加していることは見過ごすべきでないだろう。実習先の種別にかかわらず、多様な場面を想定し、可能な限り教材を持参するよう、継続して学生へ伝えていかねばならない。

今回は紙芝居の舞台とパネルシアターのボードについても調査したが、紙芝居の舞台を持参した者の割合は保育所実習Aでは0%、園から借用した者の割合は2.7%とごくわずかに留まり、保育所実習Bでは前者・後者ともに1.4%、施設実習では前者・後者ともに0%と、ほぼすべての紙芝居の実践が舞台なしに行われたことが明らかになった。

パネルシアターについては、実践した実数自体が少なかったが、保育所実習Aで80%が持参し、20%が園から借用、施設実習ではすべて園から借用であった一方、保育所実習Bでは持参した者（手作りのボードの持参も含む）の割合が71.4%であったことは評価したい。

絵本と紙芝居、そして紙芝居の舞台とパネルシアターのボードに限らず、単に教材を持参するか否かという指導に留まらず、教材を自身で選び、持参すること、あるいは自作することの意義、そして教材それぞれの特性を踏まえた実践の意義についても「保育内容言葉」や「児童文化」といった関連する専門科目とも連携し、学生の理解を促していきたい。

今回、実習中に実践した言語表現教材について保育3実習を比較したが、明らかとなったことを以下に整理する。

- ① 言語表現教材の種類数・実践に対する意欲ともに、実習の回数とは必ずしも比例関係にはなかった
- ② 実践の事前・事後の指導を受けることができていない者の割合は実習の回数を重ねるほどに増加していた



- ③ 教材を持参した者の割合は実習の回数を重ねるほどに減少していた
- ④ 実習と行った地域による有意な差は認められなかった

①・②・③については、今回の結果のみを以て、保育3実習の実態が明らかになったとは言い難い。保育実習そのものの特性である可能性よりも学内における事前・事後の指導に左右される可能性が高いように思われる。まずは次年度の学内事前・事後の指導に還元することで教育効果の向上を図るとともに、次年度以降も今回と同様の調査を行うことで実習先の種別や実施時期、地域によって異なる状況が生まれるかについての検証を継続することとする。

④については、実績実数そのものが少なく、正確な比較を行うには十分ではなかった。上に記したように、次年度以降も調査を継続し、対象数を積み重ね、改めて地域による差が生じるかを検証したい。

大元千種（2013）「保育現場における紙芝居の活用の課題：保育学生の紙芝居経験を手掛かりとして」筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要8, pp. 177-188

全国保育士養成協議会（2014）『平成25年度専門委員会課題研究報告書「保育者の専門性についての調査」-養成課程から現場へとつながる保育者の専門性の育ちのプロセスと専門性向上のための取り組み-（第2報）』

鬘櫛久美子・野崎真琴（2010）「保育現場における紙芝居の活用状況」名古屋柳城短期大学研究紀要32, pp. 65-75.

<sup>1</sup> 保育所保育士（調査紙発送数：1707・回収数：763・回収率44.7%）・施設保育士（調査紙発送数：719・回収数：336・回収率46.7%）・幼稚園教諭（調査紙発送数：486・回収数：278・回収率57.2%）・全国保育士養成協議会会員校に勤務する教員（調査紙発送数：1,326・回収数：392・回収率29.6%）を対象に実施された、①「保育に向かう態度の獲得時期」②「保育者基礎力の獲得時期」③「経験による変化」④「専門的知識・技能の獲得時期」⑤「保育者の専門性の評価」⑥「保育者の専門性向上」⑦「効果的な研修」⑧「連携」についての質問紙調査。

<sup>2</sup> 「最初の保育実習までに」「実習を経て卒業までに」「勤務年数1,2年までに」「勤務年数3,4年までに」「勤務年数5年以上」「勤務年数10年以上」の6つの選択肢の中から回答を求めている。

<sup>3</sup> 本調査においては、2年次前学期開講科目「児童文化」との関連から、学生にとってより馴染みのある「児童文化財」の呼称を使用した。本調査では「言語表現教材」と同義のものとして扱う。

<sup>4</sup> 絵本、紙芝居は図書館で貸借し、実習先へ持参することが可能。各実習の学内事前指導においても、自身で購入するか、あらかじめ学内図書館や公立図書館であらかじめ貸借し、実習先へ持参するよう指導している。他の言語表現教材については学生自身が自作するに任せている。

<sup>5</sup> 紙芝居とパネルシアターについては、教材そのものを図書館から借用したり、自作したりするとともに、実演の際にはそれぞれ舞台やボードが必要となる。これらを持参しているか園から借用しているかについて実態を調査した。

<sup>6</sup> 例えば児童発達支援センターや障害児入所施設における実習において、実習先の職員による通所児童・入所児童に対する支援の見学・観察を主たる内容とし、参加・指導については必須としない、といったことが想定できる。

### 【参考】

大野恵美（2014）「保育士養成課程における実習での音楽実技についての考察」湘北紀要35, pp. 53-65

## 資料2 アンケート調査用紙

## 児童文化財（実習関連）に関するアンケート

以下の設問のうち、該当するものに○をつけてください。

1. 実習を行った地域はどこですか。

福岡市内 ・ 福岡県内 ・ 福岡県外（\_\_\_\_\_県）

2. 次の児童文化財のうち、実習中に実践したものは何ですか（複数回答可）。

1 絵本      2 紙芝居      3 素話      4 パネルシアター      5 ペープサート

6 エブロンシアター      7 人形劇      8 その他

3. 設問1で 8 その他 と回答された方にお聞きします。それは具体的には何ですか。

[ \_\_\_\_\_ ]

4. 設問1で 1 絵本 、2 紙芝居 と回答された方にお聞きします。持参しましたか。園のものをお借りしましたか。

持参した ・ 園から借用 ・ 一部持参、一部園から借用

5. 設問1で 2 紙芝居 と回答された方にお聞きします。舞台は使用しましたか。

使用せず（手持ちで実践） ・ 園の舞台を借用 ・ 舞台を持参し使用 ・ 手作りの舞台を持参し使用

6. 設問1で 4 パネルシアター と回答された方にお聞きします。ボードは持参しましたか。園のものをお借りしましたか。

持参した ・ 園から借用 ・ 手作りのボードを持参し使用

以下、設問2で1～8と回答された方にお聞きします

7. 実践は自ら申し出ましたか。指導担当者からの指示でしたか。

自ら ・ 指導担当者からの指示 ・ 一部は自ら、一部は指導担当者からの指示

8. 実践に際し、事前に指導案を書き、指導担当者からの指導（アドバイスなど）を受けましたか。

はい ・ いいえ

9. 実践した後、指導担当者からの指導（アドバイスなど）を受けましたか。

はい ・ いいえ

本アンケートは次年度以降の実習指導への活用とそれに関連する研究活動以外には使用いたしません。

ご協力ありがとうございました。